

## 安全データシート

製作日 2018 年 4 月 13 日

### 1、製品及び製造会社情報

1) 製品名：「稚内珪藻壁」 稚内珪藻調湿・消臭内装塗壁材

製品種別：タイプ<W80S>（粗粒タイプ）- 鋳塗り専用材料

色：「ナチュラル」「オフホワイト」「ライトイエロー」  
「ピンク」「スカイ」「ウグイス」「アカチャ」「キナリ」  
「ブラウン」「グレー」

2) 製品説明：種類・稚内珪藻頁岩配合

消石灰系左官鋳塗りプレミックス粉末仕上塗材料

製品荷姿・<主材>10kg/袋

<着色顔料>600g/袋 分別袋詰め型

用途・建築用（内装用壁仕上げ材料）

食品・医薬品・飼料・飲料物には使用出来ない。

使用法・水と練り合わせて壁に塗り付けた後に乾燥、  
固化、固定させる。

（※使用法の詳細は施工要領書を別途必読する事。）

特記・この SDS は、使用される迄の粉末状態に於いて適応  
する。

（※使用後に於ける固化、固定後に適応しない。）

3) 会社名：鈴木産業株式会社

4) 所在地：〒070-8005 北海道旭川市神楽5条3丁目2番4号

5) 担当部門：開発業務部

6) 電話番号：0166-61-4741

7) FAX 番号：0166-61-8357

8) 緊急連絡先：同上

2、危険有害性の要約（※粉末状態に於ける）

1) GHS ラベル要素

1 > ラ      ベ      ル



2 > 注意喚起用語：危 険

3 > 危険有害性情報：①皮膚刺激

②重篤な眼の損傷

③呼吸器系への障害

④大量に長時間吸入するとじん肺の恐れあり

⑤長期又は反復ばく露による肺・呼吸器系・腎臓の障害

4 > 安 全 対 策：①防塵マスク、保護眼鏡、手袋、保護着を使用する事。

②粉塵を吸引しない事。

③十分な換気を取る。

④取り扱い後は良く手を洗い、うがいをする事。

⑤粉塵の発生を抑える事。

2) GHS 物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性/引火性ガス	区分外
エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	区分外
水反応性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

3) GHS 健康に対する有害性

急性毒性/経口	区分外
急性毒性/経皮	分類できない
急性毒性/気体	分類対象外
急性毒性/蒸気	分類対象外
急性毒性/粉塵及びミスト	分類対象外
皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分1
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性/全身毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器系）
	区分2（消化器）
特定標的臓器毒性/全身毒性（反復ばく露）	区分1（肺・腎臓）
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境有害性	分類できない
オゾン層への有害性	分類対象外

3、組成及び成分情報（※粉末状態に於ける）

1) 単一物質又は混合物の分類：混合物である。

2) 製品全組成及び成分情報

種別	含有物質	化学名（一般）	含有率	CAS. No	備考	
主材	稚内層珪藻頁岩	珪質頁岩	約 80%	-	※1	
	消石灰	水酸化カルシウム	約 11%	1305-62-0	※2	
	繊維	ガラス繊維	約 1%	65997-17-3	※3	
	有機物	変性ポリマー剤		約 2%	-	※4
		ヒドロキシプロピル化デンプン分解物			9049-76-7	※5
		セルロースヒドロキシプロピルメチルエーテル			9004-65-3	※6
		メチルセルロース			900-65-3	※7
顔料	着色用顔料	酸化金属系顔料	約 6%	別記載	※8	
全体			100%			

製品梱包状況は、<主材>と<顔料>を分けて袋詰めを行うセパレートタイプ。

※1：稚内層珪藻頁岩

GHS 分類・該当区分無

物 性・北海道天北地方に堆積する天然多孔質鉱物である。

海洋性珪藻プランクトンが堆積して出来た珪藻土が地圧と熱的変成を受け、地質的变化を受けて岩石化したページ（頁）状岩石で頁岩と云い、成分は主として非晶質シリカであるオパールCT（ $\text{SiO}_2 + n\text{H}_2\text{O}$ ）などで構成される鉱物質である。

有 害 性・大量に長時間吸入すると“じん肺”の恐れあり

微量に結晶性シリカ（石英）を含む。石英は結晶性シリカはIARCではグループ1（発がん性を示す）に分類。

配合用途・骨材、吸放湿機能素材、塩基性ガスの消臭機能素材として使用。

稚内層珪藻頁岩の成分値（強熱分析法による）

化学式	成分名	含有率 (%)
SiO <sub>2</sub>	二酸化シリカ（珪酸）	79.47
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	酸化アルミニウム	8.63
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	酸化鉄	1.8
TiO <sub>2</sub>	二酸化チタン	0.32
CaO	酸化カルシウム	0.24
MgO	酸化マグネシウム	0.87
Na <sub>2</sub> O	酸化ナトリウム	0.66
K <sub>2</sub> O	酸化カリウム	1.45
MnO	酸化マンガン	0
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	五酸化リン	0.04
Ig.Loss	強熱減少重量	6.52

※天然鉱物の為、左記票の数値は変動する。

※2：消石灰

GHS 分類・分類対象外

主 成 分・水酸化カルシウム・Ca(OH)<sub>2</sub>

物 性・炭酸カルシウムを熱処理して作られる。水と練り合わせた後に、空气中の二酸化炭素と反応して固化・硬化が進む。

有 害 性・口腔、鼻腔に吸引、肌に付着すると、刺激を受ける恐れがある。

配合用途・固化剤として使用。

※3：ガラス繊維

GHS 分類・分類対象外（成型品・化学物質排出把握管理促進法対象外品）

化 学 名・ソーダジルコニア珪酸塩ガラス

配合用途・クラック発生防止

※4：変性ポリマー

GHS 分類・分類できない

化学名・変性ポリカボキシル性ポリマー

成分・変性ポリマー100%

有害性・無

配合用途・水と混練した場合に於ける粉体の分散性の向上

※5：ヒドロキシプル化デンプン分解物

化学式・Starch-O-C<sub>3</sub>H<sub>6</sub>(OH)

GHS 分類・該当区分無

化審法・第8類-164

主用途・食品添加物

有害性・無

配合用途・水と練り合わせた時に粘性を出すために使用

※6：セルロース ヒドロキシプロピルメチルエーテル

化学式・-H,-CH<sub>3</sub>,-CH<sub>2</sub>CH(OH)CH<sub>3</sub>

GHS 分類・該当区分無

化審法・第8類-196

主用途・工業用保水材

有害性・無

配合用途・水と練り合わせた時に粘性を出すために使用

※7：メチルセルロース

化学式・C<sub>6</sub>H<sub>7</sub>O<sub>8</sub>(OR)<sub>n</sub>

物性・天然海藻粉末

有害性・無

配合用途・水と練り合わせた時に粘性を出し、急乾燥を防ぐ為に保水材として使用

捕捉> ※5,6,7 は増粘剤として調合して配合。

本製品は水と練り合わせて壁に塗って仕上げる為の材料である。

壁に塗る為には、水と練り合わせた後に適度な粘度が必要な為使用。

壁に塗り付けた後、これら増粘剤は乾燥すると下地に対しての粘着・固定剤、材料の固化剤、強度保持剤として作用する。

※8：着色用顔料

※着色用顔料は、主材には混合配合せず、別の袋詰めとする。

主成分・二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 等の酸化金属による着色顔料。

白：二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) アナターゼ型 Cas No=13463-67-7

GHS 分類・目に対する重篤な損傷又は眼刺激性-区分 2B

水生環境有害性 (長期間) -区分 4

「稚内珪藻壁」タイプ1 <W80S>

稚内珪藻調湿・消臭塗壁材 SDS

茶：酸化鉄（三酸化二鉄）（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ） Cas No=1309-37-1 及び  
酸化鉄（四酸化三鉄）（ $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ） Cas No=1317-61-9  
の混合物  
GHS 分類・分類されていない

黄：黄色酸化鉄（ $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{H}_2\text{O}$ ） Cas No=51274-00-1  
GHS 分類・分類されていない

赤：硫酸バリウム（ $\text{BaSO}_4$ ） Cas No=7727-43-7  
酸化鉄（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ） Cas No=1309-37-1  
GHS 分類・分類されていない

緑：酸化クロム（Ⅲ）（ $\text{Cr}_2\text{O}_3$ ） Cas No=1308-38-9  
GHS 分類・分類されていない

青：ピグメントブルー（ $\text{Na}_6\text{Al}_4\text{Si}_6\text{S}_4\text{O}_{20}$ ） 群青  
Cas No=57455-37-5  
GHS 分類・該当区分なし

黒：四三酸化鉄（ $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ） Cas No=1317-61-9  
GHS 分類・分類外

配合内容・製品の色の種類により、使用する種類と配合量が異なる。  
例>ピンクの場合は、白と僅かの赤の混合である。

#### 4、応 急 処 置

- 1) 眼に入った場合：直ちにまぶたを開いて、流水で15分以上洗浄する。  
症状が出た場合、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 2) 皮膚に付いた場合：汚染された衣服や靴を脱ぎ、多量の水及び石鹼で洗い流す。  
症状が出た場合、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 3) 吸引した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移動させる。  
可能であれば口腔と鼻腔を水で良く洗浄する。  
症状が出た場合、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 4) 飲み込んだ場合：水で口の中を洗浄し、400cc程度以上の水を飲む。  
無理に吐かせてはいけない。  
症状が出た場合、必要に応じて医師の診断を受ける。

## 5、火災時の処置（※粉末状態に於ける）

- 1) 特有の危険性：98%の成分は不燃物質で構成されているが、火災・高温の場所の近くにある事で、延焼、高熱の影響を受ける場合、含有する消石灰(水酸化カルシウム)による刺激性、毒性、又は腐食性のガス及びヒュームを発生する恐れがある。  
又、含有する増粘剤が熱分解や燃焼する事に依り、炎症性、高毒性のガスが発生する可能性がある。
- 2) 消火剤：水、水噴霧、二酸化炭素、粉末、耐アルコール性消火剤を使用する。

## 6、漏出時の処置（※粉末状態に於ける）

### 1) 人体に対する注意事項

- ①防塵マスク、保護眼鏡、手袋、保護着を使用して対処する事。
- ②粉塵を吸引しない事。
- ③十分な換気を取る。
- ④取り扱い後は良く手を洗う事。
- ⑤粉塵の発生拡散を抑える事。
- ⑥漏れた粉塵を、吸引機による掃除、水洗いをする等により取り除く。掃き掃除は、粉塵が舞う為に控える。

### 2) 清掃に対する注意事項

- ①取除いた粉塵は、別の袋に入れて、所管の自治体により定められた方法に従い処分をする。
- ②大量に水で洗い流す場合は、流し出しの排水路途中に沈殿槽を設け、沈殿槽内にて流した粉塵を沈殿させてから、上水を流し処理をする。  
沈殿した物は、所管の自治体により定められた方法に従い処分をする。

### 3) 環境に於ける注意事項

- ①河川などに排出され、環境に影響を起ささない様に注意する事。

### 4) 回収

- ①乾燥土や不燃材料で吸収し、密閉できる容器に回収する。



## 7、取り扱い及び保管上の注意

### 1) 保 管

- ①直射日光が当たる処、高温多湿の処での保管は避ける。
- ②雨水やその他による水濡れの可能性がある処での保管は厳禁。
- ③換気が出来る処で保管を行う。

### 2) 運 搬

- ①袋容器から粉が漏れない様に、箱・袋自体を放り投げる、大きな振動を与える等の手荒な運搬は行わない。
- ②袋容器は粉塵が発生しない様に静かに取り扱う。
- ③粉塵が漏れ出たものを運搬する時は、さらに漏れ出ない様にその容器ごとを袋に入れて密閉し、防塵マスク、保護眼鏡、手袋、保護着を使用し、取り扱い運搬する事。

## 8、ばく露防止及び保護処置

- ①防塵マスク、保護眼鏡、手袋、保護着を使用して対処する事。
- ②粉塵を吸引しない事。
- ③十分な換気を取る。
- ④取り扱い後は良く手を洗う事。
- ⑤粉塵の発生を抑える事。
- ⑥粉塵を吸引した場合は、速やかに粉塵の無い所に避難する事。
- ⑦汚染された衣類等は脱ぎ捨てる。衣類を捨てる場合は、二次汚染が広がらない様に、袋に入れて密閉し廃棄する事。
- ⑧吸引後の口腔、鼻腔を観察し、吸引した者の意識によっては、口腔、鼻腔の洗浄を行い、粉塵が無い所で十分に休息をとる。
- ⑨口腔について、飲み込んでしまった場合は、4リットル以上の水を飲む。しかしながら、無理に吐かせてはいけない。
- ⑩吸引後又はばく露後、十分に様子を観察し、何らかの症状が現れた場合によっては医者による診察を受ける事。
- ⑪この製品を使用している場所での喫煙、飲食は厳禁。
- ⑫管理濃度は設定なし及びデータ無。

## 9、物理的及び化学的性質

### 1) 物理的性質

- ①袋内では安定している
- ②粉末状態の為、流動性がある。
- ③細かい粉末の為飛散する事が容易である。
- ④融点：データなし
- ⑤臭い：データなし
- ⑥粒径：最大 0.85mm 以下の粉末

### 2) 化学的性質

- ①乾燥状態であれば安定している。
- ②水と反応し、ゲル状になり、時間と共に乾燥し固化する。
- ③水に濡れると、成分中の消石灰と増粘剤が水と反応し、凝固作用が起きる。
- ④水に濡れると、アルカリ成分により金属を腐食する恐れがある。
- ⑤水に濡れると、アルカリ成分により木材等の変色を起こす恐れがある。
- ⑥成分中の消石灰（水酸化カルシウム）が空気中の二酸化炭素と反応し、炭酸カルシウムに変化する。
- ⑦PH-11（粉体質量に対して10倍の水による溶解時）

## 10、安定性及び反応性

- ①乾燥状態では安定している。
- ②製品袋を開封すると、水や空気中の湿気と反応する。
- ③成分中の消石灰（水酸化カルシウム）が空気中の二酸化炭素とゆっくり反応し、炭酸カルシウムに変化する。
- ③増粘剤成分が、水と良く反応し、ゲル状になり、時間と共に乾燥し、固化する。

## 11、有害性情報

- ①成分中に含まれる粉末及び粉塵を長時間、大量に吸引すると、肺などの呼吸器系、或いは腎臓に重大な障害を引き超す恐れがある。
- ②成分中の消石灰（水酸化カルシウム）を含む粉塵を短期的に吸引すると、口腔、鼻腔に刺激が発生する恐れがある。
- ③眼に入った時は、刺激が発生する恐れがある。
- ④眼に入った時は、異物感、痛みが発生する場合は有る。
- ⑤肌に付いた時は、刺激が発生する恐れがある。

## 1 2、環境影響情報

- ①水生環境急性有害：データが無い為分類できない。
- ②水生環境慢性有害：データが無い為分類できない。

## 1 3、廃棄上の注意

- ①原則として所管する地方行政の取り決めに従い廃棄、処分する事。
- ②袋を開封した粉末は、製品袋とは別の袋に密閉して廃棄する。
- ③水で練った物は、廃棄できる容器に移し、固化させてから密閉して廃棄する。
- ④水と攪拌後アルカリ性を示すため、練ったものは中和処理を行い廃棄する。
- ⑤直接川や下水には流しては行けない。

## 1 4、輸送上の注意

### 1) 運搬方法

- ①粉塵が出ない様に、梱包容器の破損、腐食、漏れが無い様に取り扱う。
- ②直射日光と湿気、水濡れに注意して取り扱う。
- ③荷崩れ、漏洩の防止を行う。
- ④食料品、医薬品、飼料等と一緒に、同梱での輸送は禁止。

### 2) 輸送上の規制

- ①国際規制：非該当（危険物ではない）
- ②国連番号：非該当
- ③航空輸送：非該当
- ④船舶輸送：非該当

## 1 5、適用法令

じん肺法：第2条に該当する作業に限る。

労働安全衛生法：第22条（事業者は、次の健康障害を防止するため必要な措置を講じなければならない。）

第57条（通知対象物質：シリカ、水酸化カルシウム、炭酸カルシウム、使用顔料成分（二酸化チタン、酸化鉄、四三酸化鉄、硫酸バリウム、フタロシアニンブルー、チタニウムイエロー）

## 16、その他の情報

この安全データシートは製作年月日時点において、知り得る知見及び情報のみにて構成されています。よって、記載情報は完全である事を保証するものではありません。

その後の情報の更新や条例の改正等に基づき、告知をせずに内容を改編または更新する場合がありますので、ご了承下さい。

また、記載内容の数値、成分などに付きましては、製品の品質を保証するものではありません。

本シートに記載無き事項またはお気づきの点等の情報がありましたら、ご連絡を頂く等、ご協力頂ければ幸いです。